

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191000019		
法人名	社会福祉法人 こもればい会		
事業所名	グループホーム こでまり		
所在地	佐賀市川副町大字福富828-1		
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果市町村受理日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつでも外に出れる開放的な環境作りに努めており、外来者についても気軽に来ていただける雰囲気作りを行っている。
管理栄養士との連携を図り、季節に応じた様々な彩りのある食事作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人福祉施設の敷地内にあり、小規模多機能事業所、デイサービス事業所と併設、自由に行き来でき開放的な環境である。ホームは、居室、廊下、リビングが広く、日当たりも良い為明るく温かい雰囲気、入居者、職員がゆったりと生活されている。法人内の管理栄養士との連携を図り、季節に応じた献立や栄養バランスの取れた食事が美味しくできるように取り組まれている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念を掲げ、施設内に掲示し日々の業務の中で共有化、実践している。今後は地域密着型サービスとしての独自の理念を作っていきたいと考えている。	法人全体の理念を基本として、ホーム独自の理念を作り上げたいと考えられている。ホーム内に、法人理念を掲げ、日々のサービスに活かすように取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は運営推進会議等で知りえた地域行事等への参加を数回した程度であるため、今後は行事だけでなく散歩や買い物等地域へ出かける機会を増やしたいと考えている。	地域包括支援センターを通して、ホームの紹介を行ったり、地域のお祭への参加等取り組まれている。地域の方がホームへ訪問されたり、日常的な交流までにいたっていない。	地域の一員として、積極的に地域へ出向いたり、ホームへ来て頂けるように、日常的に交流がなされるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生や見学者の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議においては、経過や今後の課題についての報告を行い、意見を頂く様にしている。今後も活発な意見交換が出来るような場にしていきたいと思っている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催され、自治会長、行政、保健師、包括支援センター、家族、法人荘長等が参加、意見交換や行事の確認が行われ、サービス向上に活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からの入居状況等の問い合わせには随時回答している。また、日々のケアサービスを行う上での問題点や疑問点があれば随時相談している。	市町村担当者とは、問題点や疑問点を相談できる協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回管理者出席のもと法人内での身体拘束廃止委員会を設け、その結果を全職員へ還元している。さらに、平成22年1月に行われた認知症介護実践者研修に参加した職員による自施設実習の取り組みで行動を制限することによる拘束についてのミーティングをもち、拘束をしないケアを心掛けている。	全体会議、研修が行われ、毎月確認する機会を設けられている。玄関は施錠されてなく、自由に出入りができ、日々のケアの中で、身体拘束についての意識を高め、常に職員間で振り返りを行い入居者の立場に立ったケアがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待に関する研修会を行っている。さらに、日々の介護の中で入居者の方に不安や不満を与えていないかの自己点検のミーティングを行い、決まり事の作成、張り出しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や相談員は権利擁護に関する制度について理解しているが、他の職員はまだ理解が不十分であり、今後伝達していく必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、ゆっくりと説明している。料金や損害賠償、守秘義務等は別紙を設け十分に説明している。その後も内容についての質問にはその都度応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し専用用紙に記入できるようにしているが、今までに投函はない。、面会時等の家族の何気ない言葉でも要望として受け止めるよう努めている。	意見箱を設置し、意見、要望を聞く機会を設けられている。家族の面会も多く、敬老会や家族が集まる時に意見交換がその都度なされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面接を実施し、個別で面談し職員の率直な意見や提案を可能な限り反映できる様努めている。また、スタッフミーティングでも職員の意見を直接聞き、運営に反映できるように努めている。	個別で面接を行い、職員の意見を聞く機会を設けたり、月1回のミーティングを行い、自由に意見が言え、運営に反映できるように努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の思いや悩み等の把握に努め、向上心を持って働けるよう働きかけている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われている外部研修の情報を収集し、職員の能力に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう支援している。また研修に参加した職員は毎月1回の全体会議の際に報告を行い、全職員が情報を共有化できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修に参加し、同業者と情報交換している。今はまだ出席できていないが、今後はかわそえネットワーク等地域の勉強会やネットワークへの参加を行い、同業者との交流を図っていきたいと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状態、生活歴、困っていること、不安なこと等の把握をするためにサービス利用前に必ず、本人、家族と面会をしている。また、少しでも安心感をもって頂くため、事前の施設見学も勧めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で、現状の把握や困っている状況などの把握に努めている。また入居前の契約時には必ず、困っていること不安なこと、要望等の確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の段階で、本人の状況を勘案し他のサービスの方が適切であると思われた場合は、本人家族とも検討し速やかにサービスの移行を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や活動、日々のコミュニケーションの中で人生の先輩である入居者の方々に教えて頂く場面も多く、職員は日々の生活の中で出来る限り本人の想いを受け止め共感するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のホームへの面会は多く、管理者のみならず、職員との関わりの機会も多い。その中で日頃の状況の報告を行い情報の共有に努めている。また、ブログや便りの活用により入居者の方々の状況報告を行い、絆の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容院へ行き続けている入居者、ずっと習慣であったお寺参りを継続されている入居者と家族の協力のもと出来る限り馴染みの場所や習慣が途切れないように努めている。	昔から行きつけの美容院へ行ったり、定期的にお寺参りを続けられる等、個々の希望に添うように努められている。又、デイサービスに昔からの知人が利用される時には面会し、関係が途切れない支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の言い争いなどのトラブルもある中で、関係性を把握し、その事をミーティングや申し送りノートなどの活用より情報の共有化に努めている。また、感情の起伏が激しい方に関しては表情や言動の変化を日々注意深く見るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院加療という形で退居した方に関しても退院後のサービス利用について 全面的に相談、支援することを伝えると共に入院先の病院との連携も図る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まだまだ、一人ひとりの細かい部分までの意向を十分には把握できていない。また入居後、口頭でのやりとりの中で職員一人ひとりが耳にする情報に関してもしっかりと情報の共有化が図りきれていない。今後情報共有ノートやセンター方式の活用等を検討している。	一人ひとりの思いを言葉や態度で把握し、情報を職員間で共有しケアに反映できるように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等の経過を十分に把握できているアセスメントとは言い難かったため、最近入居した方からはこれまでの生活歴を記したシートを作成しているがまだまだ不十分なため今後、センター方式の活用等を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の細かい所までケース記録を残す様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録やミーティング時の個人についての気づきを元に作成しているがご家族やご本人等の関係者との話し合い、意見の反映はまだ十分ではなく今後反映できるように努めたい。	個々人の状況について記録などにより把握し、3ヶ月に1度担当者会議を開催して、介護計画の見直しを行っている。日常生活状況での課題等については、本人や家族の意見をできる限り反映するように努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子やエピソード等の記録は十分にできているが、介護計画の内容にそった記録としてはまだ不十分であるため、介護計画を意識した記録の書き方についての勉強会の必要性を感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から来られた家族に対しては、食事や寝具の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は単発の行事や季節の催しものへの参加のみにとどまっているが、今後は買い物や散歩等簡単な外出等でも地域の社会資源と協働していけるように努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前の主治医を優先。本人、家族の希望があれば当グループホーム協力医療機関への紹介を行う。受診は家族と一緒にして頂くが、状態変化が著しい場合等は職員も付き添う。また職員が付き添わない場合でも日頃の状況を記した診療情報提供書を作成し渡している。その他、必要に応じて主治医とのやりとりを行っている。	かかりつけ医の受診は、希望に応じて対応し、往診の受入も行われている。ホームと医療の連携が充実しており、適切な医療が受けられるような支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時ではないが、看護職員を配置している。看護職員を中心に入居者の健康管理や状態把握に努めている。細かい気づきを持つ様努め、看護職員への報告、相談を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先病院へ添書提供。最低でも週に1度は病院へ訪問し、本人、主治医、看護師等より状態確認を行う。また、家族とも回復状況等の情報交換をしながら、早期の退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応策としての当法人の特養への入所などは契約時より説明し、必要な状態になる様であるならば、早めにご家族との話し合いの場をもつ様に努めている。	ホームの指針として、契約時に「重度化した場合は、同法人の施設などへ入所を検討する」と説明されている。書面での記載、同意書等はない。	重度化した場合や終末期のあり方についてホームの指針を口頭の説明だけでなく、書類の整備をしていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員参加の全体会で年に1回は必ず、救急法について実技をふまえた勉強会を行っている。また、夜間緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年に2回、消防署の協力のもと防災訓練実施。その他でも自主訓練を実施している。全職員が把握できるよう訓練参加職員が偏らないように努めている。	年2回、消防署の立会いのもと行われている。さらに、自主的の毎月避難訓練を行い、法人での連絡がスムーズに取れるように取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況によっては入居者の自己決定ができる様な声かけが不十分である時がある様に感じる。一人ひとりの情報の取り扱いに関しては十分に守秘義務を理解している。	一人ひとりの人格を尊重するように心掛け、声かけ、居室への入室時等、常にプライバシーについて配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の希望等の表出があった場合は出来る限り実現できるよう努めてはいる。今後はもっと入居者が選択し自己決定できる場が必要であると思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット全体の1日の日課的な動きがほぼ決まっており、その流れに沿って生活されている方もおり、個々のペースや希望を取りいれきれているわけではないので、今後は個々の本来持っているペースに合わせるよう心がけたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開所間もない頃は入浴の際等ご自分で着たい洋服を選んでいただいていたが、徐々にそのような場面が減り職員側で選んでしまう事が多くなっている為、再度一緒に洋服を選べるように心がけたい。散髪時も可能な限り好みを取り入れることができる様な関わりをもっていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年中行事にて季節を感じる事が出来る食事の提供はある程度出来ていると思うが、希望を取り入れたメニュー作りはまだあまり行えておらず、選択の種類も少な。今後の取り組み課題の1つである。ただ、昼食は職員も一緒に談笑しながら頂いている。	一人ひとりのペース合わせて、食事ができるように配慮されている。食材をきったり、ギョーザを作ったり広いリビングで職員と入居者が一緒に準備をし食事が楽しみなものになるように取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力のもと量や栄養バランスの支援は十分に行えている。嗜好品に関しても事前に確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行い、チェック表も作成している。また、その方の状態に応じた介助方法を選択し、残存能力の維持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が自立されているが介助が必要な方に関しては、排泄表より排泄パターンを確認し、誘導時間を決めている。また、入居前はリハビリパンツを使用されていた方もトイレの声掛けを行うことで現在はご自分のパンツを使用され、失禁もなくなった。	排泄は、入居者みんな自立されている。便秘ぎみの方への確認は、職員が排泄表などにより把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便間隔を把握し、便秘傾向にある方に関しては主治医に報告、相談。必要に応じて緩下剤を使用し排便をコントロールしている。また、便秘気味の方には牛乳をよく飲んでもらう、散歩を促すなど生活面でのアプローチにも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がある方は毎日入浴を楽しんでいる。あまり入りたがらない方に関しては希望を尊重しながらも清潔保持を意識し、勧め方を工夫する等個別に対応している。入浴剤を使用すると喜ばれる方が多い。	毎日入浴できるように準備されている。入居者の希望に応じて、無理強いないように支援がなされている。長期入浴を拒否される時には、声かけ等工夫し入っていただけるように、個々にそった支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向がある方に関しては出来るだけ日中、活動をして頂くことで、夜間に安眠できる様に心掛けている。また、一日中の離床は身体的に負担になる方に関しては午睡を取って頂いている。夜寝付けない時は話を聞いたり温かい飲み物をお出ししたりしている。等個々に応じた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのケース記録に薬局から出してもらっている服用薬品名カードを入れ、全職員の把握に努めている。また、薬の内容が変更になった場合は新しい薬の薬効や副作用等を調べ、全職員で共有できる様努めている。服薬支援に関しては個々に応じた介助を行い、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯、掃除、軽作業などそれぞれの方が好みそうな事をお願いすることで、力が発揮できる様に支援しているが、入居者により偏りがあり、いつも決まった人になっているのが現状であり検討が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節毎の行事や外出等を行ってはいるが、入居者の希望を反映したり、地域に根差した物とは言えないのが現状である。今後は入居者の希望に沿って外出の機会を増やしたいと考えている。	月1回外出支援計画を立て、車で外出する機会を設けられている。又、日々の散歩も希望に応じて行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご自分で持っておられる方はおり、外出時は支払いをして頂いている。またご家族から預かっている方でも何らかの支払いの場合はご自分で支払って頂く様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の身内の方からの手紙がきてもその場で終わっており、やりとりするまでの援助はできていない。今後は家族や身内の方等への年賀状や季節の手紙等の作成を本人と共に出来るように支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に変わり目を感じて頂ける様に装飾品の工夫を行っている。自室には馴染みの物や自分の好きな物を持ちこめる様に支援している。	居室、廊下、リビング等は広く日当たりも良い為、暖かで明るい日差しが心地よい。温かい日は、中庭で過したり、さりげなく季節感を取り入れ、居心地よく過せる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士のトラブルもよくあるため、出来るだけ未然に防げる様な環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物などの持ち込みは家族に勧めてはいるが、入居者によってばらつきがある。持ちこみが少ない入居者の方の部屋は温かい雰囲気作りをしていく必要がある。	居室は広く、家族の方が泊まる事ができるように配慮がなされている。温かい雰囲気になるように本人や家族と相談し、居心地よく過せるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的には一般の家庭と変わらない様な雰囲気作りを心掛けてはいるが、洗剤や包丁、はさみ等の刺激物、危険物は引き出しの中に入れている。		